

ム連携でした。2017年7月時点ではこれが31本に増え、さらに5本が加わる予定です。開発標準とテンプレート開発を進めたおかげで、対象システムが変わっても短時間で連携インターフェースを構築でき、運用方式も統一することで、運用コストも下がりました。」(早田氏)
データ連携はいわば裏方、つながって当たり前。ユーザーの“こうしたい”の実現をデータ連携で支えていくことが役目だと語る。

Notes上にあった業務のkintoneへの移行開発は2017年3月を完了目標に進み、2017年1月から着実にリリース数を増やしていった。使い勝手がNotesに近いこともあり、ユーザー自身が触れて活用しながら業務をシステム化していける。5月以降はユーザー勉強会も開催し、参加者も増えているという。
「kintoneの導入で一番の効果は、稼働が安定し出勤時の心配がなくなったこと(笑)。ユーザーは1000人ほどで満足度も高く、アプリケーション数も300くらいになっています。アプリケーションは自分たちで作るという意識が浸透しつつあります。」(陣内氏)

アプリケーション開発はユーザーに申請してもらい、テストサイトで使ってみて、良ければ本番へ上げる流れ。新たな追加機能は開発パートナーにプラグイン化してもらい、汎用的に使えるようにしている。

今後の展開

基幹システム再構築へ向けたさらなるkintone活用とデータ連携基盤の強化を進める。

同社では基幹システムの根本的な再構築を計画している。kintoneもデータ連携基盤も、生まれ変わる基幹システムとのスムーズな連携の実現が最大のテーマだ。kintoneではデータ連携とセットにしたプラグイン化を推進する。また、ペーパーレス化の実現に向けて、残っている紙による業務運用も今後、「移せるものはkintoneへ移してkintoneを意識しないくらいのところまでもっていく。」(高倉氏)
NDIソリューションズへの期待も大きい。「お付き合いするベンダーには、当社のビジネ

スを理解し、情報システム部門のミッションを理解したうえで、新しい価値の提案と提供をしてほしいと望んでいます。NDIソリューションズは今回のプロジェクトでそれを実現し、われわれが描くものの一歩先のソリューションまで提案してくれました。今後も頼れるパートナーとして共に進んでほしいと思います。」(高倉氏)

「NDIソリューションズには提案のスピードがあり、実力のあるベンダーとの協力関係に信頼が置けました。私自身、安心してユーザーに向けて仕事ができるので、これからも期待しています。」(陣内氏)

「NDIソリューションズとは、単にこちらの言うことをやってもらうのではなく、お互いの意見を交わしながら最善の道を探りました。それがなければ、このデータ連携基盤はできなかったと思います。常に上を目指すNDIソリューションズを頼りにしています。」(早田氏)

NDIソリューションズは、お客様の期待にお応えし、さらに一歩先駆けるソリューションのご提案を進めていきます。



横河レンタ・リース株式会社 様

老朽化システムのリプレースを機に社内業務システムの全面刷新に踏み切り、クラウドファーストの方針のもとにNotesからkintoneへの移行と新たなデータ連携基盤の構築を果たした。

AS/400のバージョンアップを契機にNotesをkintoneに移行し、併せてオンプレミスとクラウド間のデータ連携基盤を構築

IT機器と計測器のレンタル事業と、日本ヒューレット・パッカード株式会社のプラチナパートナーとしてシステム事業を展開する横河レンタ・リース様。「モノからコトへ」のコンセプトのもと、ハードウェアのレンタルをベースにソフトウェア、ソリューションサービス、クラウドサービスでの商品開発を進め、対象ユーザーも大手だけでなく、中小・ベンチャーへの拡大を図る。そこで求められるのが、スピーディーな事業展開を支えるシステム環境の刷新だった。

今回、基幹システムAS/400のバージョンアップを契機に、Notesからkintoneへの移行と、DataSpider Servista + Thunderbusによるデータ連携基盤の構築で、システム環境刷新の第一歩を踏み出した。このプロジェクトに、Slerとしてソリューション提案から全体マネジメントを担ったのがNDIソリューションズだった。

背景と課題

基幹システムのバージョンアップを契機に、Notesの移行とスピードのあるシステム連携基盤が求められた。

創業以来、事業の柱として掲げてきた『所有から利用へ』のコンセプトから、30周年の節目を迎えた現在は、IoT社会の本格到来に向け『モノ』から『コト』へ『ハードウェア』から『ソフトウェア』・『サービス』へとコンセプト枠を拡大し『サービス創造、提供カンパニーへの変革』に舵を切った横河レンタ・リース株式会社。現在はIT機器や計測器のレンタル事業を基軸に、システム基盤設計・構築・保守まで行うシステム事業を展開。また高付加価値サービスとしてデータレスPC™ソリューションや資産管理BPOソリューションをはじめとする自社開発のクラウド型サービスなど、お客さまの業界を問わない柔軟なソリューションを積極的に展開している。

こうした新たなサービスを生み出し、支えていくためのIT基盤をどのように整えていくのかは、横河レンタ・リース様にとって大きな経営課題になっていた。

その第一歩として社内インフラを整備する同社の情報システムセンタの差し迫った課題が、基幹システム (AS/400) の老朽化であり、サポート切れが訪れる前のバージョンアップリプレースだった。同時に、情報システムセンタを悩ませていたのが、長らく業務に密接に関わって使われてきたNotesの運用負担増大の深刻化であった。旧バージョンのまま使い続けた結果、システムの複雑化によるレスポンス低下を招いていた。しかし、これまでNotesを使って基幹システムの周辺に多くのアプリケーションとデータベースが作られてきたため、今後このNotesをどうするのか、情報システムセンタではその判断を迫られていた。

こうした中、ITコンサルティングやデータセンタ事業での多彩な経歴を持ち、企業活動とITとの関係を見通すことに経験がある執行役員 (CIO) 情報システムセンタ長高倉敏行氏に求められたのは、同社の将来に向けた業務システムのあり方を見極め、その実現を図ることだった。高倉氏はこう語る。「これまでほぼ全てのシステムがオンプレミスでしたが、当社の事業展開のスピードを考えると単に基幹システムをリプレースすれば済むこ

OVERVIEW

● 背景・課題

- ・基幹システムのバージョンアップリプレースが必要。
- ・Notesの運用管理負担増大の深刻化。
- ・多くの社内周辺システムとのシームレスなデータ連携が不可欠。

● 導入後

- ・周辺システムとの複雑な接続環境も含め、安全に基幹システムのバージョンアップを実現。
- ・kintone導入で柔軟な業務開発プラットフォームを構築。
- ・DataSpider ServistaとThunderbusによる、オンプレミスとクラウド間のデータ連携基盤をセキュアかつスピーディに構築。

CUSTOMER PROFILE



横河レンタ・リース株式会社
 本社：東京都新宿区西新宿1-23-7
 新宿ファーストウエスト
 設立：1987年1月23日
 資本金：5億2,800万円
 従業員数：744人 (2017年4月1日現在)
 URL：https://www.yrl.com/

●会社名及び商品名は各社の商標または登録商標です。 ●詳しい内容、制約条件等は営業担当者にお問い合わせください。 ●記載事項は事前の予告なく変更させていただく場合があります。



執行役員 CIO
情報システムセンタ長
高倉 敏行氏

とではなく、仕組みそのものをどうチェンジするかを考えました。また、今後の事業展開を支えるためのITインフラが必要で、迅速性、柔軟性、機能性を備えたクラウドをうまく組み合わせさせて使っていく。どうしてもクラウドでは駄目なものだけ中に残して、クラウドファーストの方針で考えた。」

同社では社外向けのWEBサイトはダイレクトコネクトでAWSを利用していたものの、社内向けの業務システムは全てオンプレミススペースであった。そのため社内にはクラウドの導入に慎重な意見もあったが、今後の事業展開を支えるシステム基盤を考えれば、柔軟性、拡張性、運用コストに優れるクラウドサービスの活用こそもっとも合理的な選択という考えに異論はなかったと言う。

ただし、当然ながらオンプレミスの基幹システムをすべて一気にクラウドへ移行するわけにはいかない。将来的にもオンプレミスでいくという選択肢もある。

「そこで重要になるのは、クラウドとオンプレミスの間でのセキュアな情報、データの連携です。それも、リアルタイム連携が可能でなくてはいけません。業務で使うアプリケーションの開発も、要件を聞いて1年かけて開発するというやり方ではなく、早く実装して使ってみて駄目なら変えていけばよいというやり方。そのプラットフォームとしてkintoneを採用し、これをNotesの移行先と考えました。」(高倉氏)

同社では、基幹システムの大規模リプレースをしており、今回はその前段階として周辺システム環境の刷新を目指した。

情報システムセンタでは、AS/400のバージョンアップと将来を見据えたシステム再構築での提案を既存ベンダーに依頼したが、同社のIT環境を変革する意図を正しく理解した提案が得られずにいたという。そこで、新たな提案を求めて接触したのが、NDIソリューションズだった。

「いろいろ調べましたが、IBMプラットフォームに精通しマイグレーションにも強いところは限られています。NDIソリューションズがその1社だと知り、お願いしてみることにしました。」(高倉氏)

NDIソリューションズはIBMプラットフォームとAS/400に豊富な経験を有しているほか、幅広いITインフラ環境のアセスメントと移行支援に多くの実績がある。クラウドとオンプレミス間のデータ連携も含めて、ITインフラのデザインと構築に関わるソリューション提供に強みを持っており、横河レンタ・リース様のご要望にも的確にお応えしていた。

導入プロセス 1

運用負荷が増大する Notes から kintone への移行を実施し、EUC 業務基盤をつくる。

同社で使っていた Notes は、バージョンが古いこともあって、Windows7では動かないためVM上で動かしていたものの、レスポンスの低下と障害の発生により業務に支障を来すことが多々あり、ユーザーにとって使う上での負荷が増していた。特に問題となっていたのはシステム運用の負担であった。情報システムセンタの管理担当者が一人で障害対応に追われることもしばしばで、この間ユーザーの業務が滞るといったケースもあった。

Notes から kintone への移行を担当した情報システムセンタの陣内日佐子氏はこう振り返る。「AS/400も古いため、Notes との日次バッチのデータ連携でトラブルをよく起こし、たびたび遅延が発生することもありました。それでも社員にとっては使い慣れたツールということもあり、移行先が見当たらずに使い続けていました。」

そこで、高倉氏が移行先として提案したのが kintone だった。

「クラウドでいなら kintone しかないと考えました。基幹のバージョンアップのスケジュールもあり、障害となる Notes の連携を早く解決しないといけません。kintone なら Notes からの移行もスピードを持ってできると確信しました。」(高倉氏)

NDIソリューションズは kintone 導入にも多くの実績がある。AS/400 のバージョンアップと並行した kintone 導入も、そのソリューション提案が高く評価されプロジェクトを任せられることになった。Notes から kintone への移行にあたっては、Notes 技術者を多く擁し、移行時の開発実務に精通するコムチュア株式会社との協力体制で臨んだ。

「kintone はテスト使用してみてもライトで使いやすいと感じましたし、ユーザーが柔軟にカスタマイズできるのも魅力でした。Notes で作ったアプリケーションとデータベースは100本ほどありましたが、1つずつ廃棄か移行するかをユーザーと検討してコアの10システムほどを kintone へ移行することに決め、他は Notes データを HTML 形式でファイルサーバに保存しておいて、必要になったらそれを閲覧することにしました。開発パートナーのコムチュアさんの技術者にテクニカルなことを聞きながら、共に Notes からの移行での実装開発を進めました。基幹システムとのバッチ連携も

時間内でできるようになりました。」(陣内氏)

Notes アプリケーションとして稼働していた移行対象の10システムは、すべて業務上欠かせないシステムである。例えば、レンタル契約の期日管理を行う「期間満了 Watcher」システム。契約満了時期が近づくとお客様にメール通知して契約の延長か終了かを検討してもらうと同時に、担当営業にも通知して営業機会を逃さないようにする。

こうした重要なアプリケーションがそれぞれ基幹システムとデータ連携している。基幹システムのバージョンアップがスケジュールに上っていたため、その前に Notes からの移行を終えなければならず、一から開発しているわけにはいかなかった。

「それをスピード感持ってできるのが kintone でした。何より kintone は Notes と使い勝手が近くユーザーもすぐ使えますし、慣れてくればユーザー自身で手軽に EUC (エンドユーザー・コンピューティング) ができます。」(高倉氏)

導入プロセス 2

DataSpider + Thunderbus で オンプレミスとクラウドをつなぐ データ連携基盤を構築。

もう1つ重要な課題となっていたのがデータ連携。その担当になった情報システムセンタの早田明雄氏がこう語る。

「全社のシステム間のデータ連携の状況を調べてみて分かったのは、各システム間が複雑に絡み合うスパゲティ状態になっていることです。いろいろなツール・手法が使われているため運用方式もばらばらでしたし、扱うデータが大容量になるとメモリが落ちるといった難点もありました。私のミッションは、クラウドサービスの導入で周辺システムも変わる中、複雑化したデータ連携を整理して統合されたデータ連携基盤をつくるということでした」(早田氏)

そこで注目したのが DataSpider Servista (以下、DataSpider) であった。

DataSpider は、異なるシステムのデータやアプリケーションをノンプログラミングでつなぐことができる EAI ツールである。主要なデータベースやアプリケーションなどの接続先に対する50種類以上のアダプタが用意されている。

また、DataSpider に注目した大きな理由として、大容量データに強いということがある。データ抽出、変換、書き込みの工程を分割し、並列して実行する機能によって処理容量と速度を向上させている。

「実際に他製品と同条件の大容量データで検証したところ、DataSpider は一定のパフォーマンスを維持したまま短時間で終了でき、連携基盤のツールとして持つべき機能を備えていると評価しました。」(早田氏)

さらに、DataSpider に加えて、クラウドから

オンプレミスのデータをリアルタイムに取得するという課題に対して NDIソリューションズ が提案したソリューションが Thunderbus であった。

Thunderbus を使うと、専用線や特別なネットワーク環境を使うことなく、クラウドサービスの kintone からオンプレミスシステムのファイルやデータへ、セキュアかつシームレスにアクセスできる。当時、この Thunderbus は製品開発を終え、製品化へ向けたテストを行っている段階であったが、Thunderbus を高く評価し、横河レンタ・リース、NDIソリューションズ、セゾン情報システムズの3社で、製品化に向けて協力・調整を行った。

「DataSpider プラス Thunderbus というデータ連携基盤ソリューションは、まさにわれわれが求めていたものでした。NDIソリューションズが私たちの意図を理解し全力で取り組んでくれたことで、セキュアかつスピーディに連携基盤ができました。」(早田氏)

導入効果

データ連携基盤が実現し、ユーザーによる kintone での業務アプリケーション開発も活発化。

DataSpider Servista + Thunderbus によるデータ連携基盤は開発着手から4ヶ月の2017年2月に実装を終えることができた。「実装を終えた時点の17本のうち10本はリアルタイム

